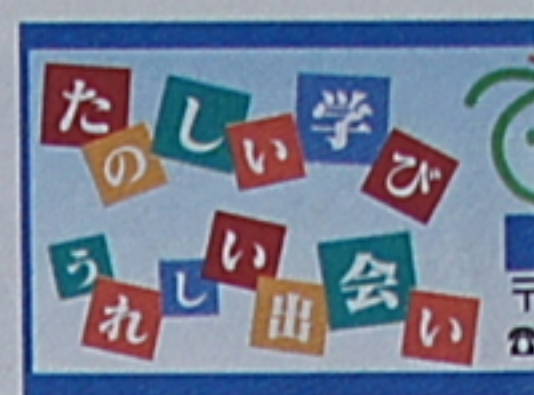


さっぽろシティライフ



2007年4月6日<217号> 第2・4金曜日発行/無料

記事の 011 [642] 7701
問い合わせ

配布の 011 [281] 8858
問い合わせ

(株)道新サービ
〒060-8620 札幌市

★ さっぽろシティライフ 創刊 9 周年記念 ★

“自分らしさ”を大切に イキイキ働いている 女性たち



さっぽろシティライフは、おかげさまで9周年を迎えることができました。そこで、これまでシティライフを支えてくれた多くのメイン読者である“働く女性”にスポットを当て、10人の女性たちにインタビュー。モデル、樹木医、飲食店経営にバスの運転手…と、職種もキャリアも年齢も異なる10人ですが、全員に共通しているのは“自分らしさを大切にイキイキ働いている”こと。彼女たちのイキイキした仕事ぶりを紹介します！

「笑顔」「楽しい」「やりがい」など
イキイキ働く女性のイメージキーワードは、

シティでは、これまでもたくさんさんのOLさんを紙面でピックアップしてきました。今回改めて、「イキイキ働いている女性って、どんなイメージ？」とOLマーケティング委員会メンバーに質問をしたところ、「明るく楽しそうに働いている」「一緒に仕事をしたいなと思えるような前向きな人」「何があってもくじけず、明るく、人間関

係もスムーズ」「忙しくても笑顔で、大変な仕事や面倒な仕事も嫌な顔をせずこなす」「目標を持って仕事をしている」「大変な仕事でも、その中に楽しさややりがいを見いだして働いている」「人のために何かできることに生きがいを感じている」などの意見が。どうやら「明るい」「笑顔」「楽しい」「やりがい」がキーワードのよう。ま

た、「プライベートも充実していると、仕事も充実し、イキイキ働けると思う」という意見もありました。
今回、4ページ(1、2、3、16面)にわたって紹介する女性たちは、つらいことや苦勞を乗り越え、自分の仕事に情熱を傾け、皆さんイキイキしています。彼女たちの話が、読者の皆さんへのエールになるといいなと願っています。

世界に一つの新郎新婦のオリジナルブーケを作るフラワーデザイナー

グリーンネックス代表

サカザキリヨウさん

ブライダルブーケを制作する「グリーンネックス」の代表サカザキリヨウさん。大学卒業後、商社で営業をしていた彼女が、フラワーデザイナーになったのは27歳の時でした。24歳でフラワーアレンジメントの教室に通い始めてすぐ、花の世界にのめり込んでいったそう。その理由を「花は、私にとって初めての挫折だったからかもしれません」と語ります。自らを「器用貧乏」という彼女は、それまでやってきたことは、何でもそれなりに出来たそう。それが、花に関してはなかなか思い通りにいかず、そのことが一層、気持ちに火を付けたようです。最初はフリーで始め、現在は2人のスタッフを雇い、ブライダルブーケ制作のほか、フラワーアレンジメント教室も開催。休日も花のことを考えたり、書店で花の本を見たり…。自らを「ワーカホリック」と笑うほど、この仕事に時間を割いています。

多忙な結婚式準備も、ブーケの打ち合わせだけは楽しんでもらいたい

グリーンネックスのブーケを丁寧に作る新郎新婦に、新郎は、すべてオーダーメイド。世界に1つのブーケ作りは、花嫁が求めるイメージを探ることから始まります。イメージを引き出す時は、持ち物、洋服、メイク、会話の内容…、あらゆる情報から好みを探るそう。そのため、最も大切にしているのが打ち合わせの時間です。「仕事をもち新郎新婦が結婚式の準備をするのはとても大変。限られた時間で多くを決めなくてはいけないので、疲れてしまふんですね。だから、せめてブーケの打ち合わせの時は楽しんでもらいたいんです」。サカザキさんの一つひとつの過程

「好きな仕事をしてお金をいただけることは、本当に幸せです」という言葉。そうしみじみ語る姿は、凛(りん)としていながら自然体。強さとしなやかさを感じさせる清々(すがすが)しい横顔でした。



アトリエで、温泉旅館のディスプレイ用のアレンジをするサカザキさん



PROFILE

さかざきりょう／1973年札幌市出身。大学卒業後、日用雑貨の卸商社に営業職として2年間勤務。その後、フラワーアレンジメントの教室に通い、フリーのフラワーデザイナーとして活動。2003年「グリーンネックス」のアトリエをオープン